

多文化に関わる団体を紹介します！

鎌ヶ谷国際文化交流協会(ICECK)

私たち鎌ヶ谷国際文化交流会(ICECK)は、文化を中心に国内外の地域との交流をはかり、未来をみつめた社会貢献をする目的で1999年設立しました。2011年に「ピラーンと医療を考える会」を通じてナブル村の存在を知りました。ここはフィリピンのミンダナオ島にあり、電気・水道のない大変な僻地です。初等教育を受ける子供が多数いるにもかかわらず、山岳地帯のため学校がありませんでした。そこでICECKがジャズコンサートでの収益金などを学校建設の資金として「ナブル村」に寄付し、「ナブル鎌ヶ谷小学校」を寄贈しました。そして教師の給料の支援もしてきました。これからも支援活動を続け、子供達の未来の可能性の実現に少しでも関わりたいと思います。

活動報告を紹介します！

令和4年12月11日(日)お正月かざりを作ろう！実施

栗野の森の会は自然環境を、そのまま生かし、生きものたちと共存できる公園を目指し、多くの人に森の豊かさや、関わることの楽しさを知ってもらうために、活動をしています。会代表の小出さんを講師に迎えお正月飾りを実施しました。定員30名を超え、外国籍(中国、ペルー)の方も参加され大変好評でした。栗野の森でクロマツ、カラマツ、スギ、ノグルミ、セイタカアワダチソウ、ヒノキなどを使い素晴らしいお正月飾りが完成しました。



栗野の森で育った材料



出来上がり



作成中

ナブル・カマガヤ小学校



辺境ピラーンの初等教育を支える
ナブル・カマガヤ小学校
去年も39名が巣立ちました。



卒業生の皆さん

11年前に鎌ヶ谷国際文化交流会(ICECK)の資金協力で創設した校舎は経年劣化があるものの小学校の役割をしっかりと果たしています。蛇行する河川には橋はなく、10数回川を徒歩で渡り、さらに数時間歩く辺境にあるピラーンの村ナブル。貴重な初等教育の拠点として児童数が増加しました。ここを卒業したジェニーはインターンとしてパナイ島の病院勤務が決まり、教師志望のジェーンは1年間ナブル小でボランティア教師を努める予定です。

-ピラーン通信引用-